

自主防犯パトロールの手引き

～ふくいマイタウン・パトロール隊員のために～

犯 罪 抑 止 対 策 室

～ 目

次 ～

自主パトロールの目的	1
自主パトロールの立ち上げ方	1
自主パトロールのイメージ	2
自主パトロールの必需品	2
自主パトロールの注意事項	3
自主パトロールの方法	4
自主パトロールの着眼点	5
不審者発見時等の通報要領	6
少年に対する声かけ要領	6
自主防犯パトロールQ & A	7
参考資料1	
防犯のポイント【窃盗・性犯罪・子どもの誘拐】	8 ～ 12
参考資料2	
ブローケン・ウインドウズ(割れた窓)理論	13

自主パトロールの目的

自主パトロールの目的は、

犯罪・事故・災害の被害を未然に防止すること

地域のみなさんが安全に対する関心を高めること

パトロールに参加することで地域の連帯感を醸成すること

地域の犯罪抑止機能を向上すること

にあります。

自主パトロールの立ち上げ方

有志を募りましょう

自治会・PTA・会社など、地域に居住する方や勤務する方で、パトロールのできる方を募集しましょう。

リーダーを決めましょう

有志の方が集まったら、パトロールを効果的に推進するため、推進責任者や副責任者（リーダー・サブリーダー）を決めましょう。

パトロール方法を決めましょう

リーダーを中心に、どのような方法でパトロールするか話し合しましょう。

交番・駐在所などからの情報を参考にしましょう

地域を管轄する交番・駐在所、警察署が発信する犯罪の発生状況や危険な場所などの情報をパトロールの参考にしましょう。

パトロールの開始を知らせましょう

地域のみなさんへ協力を求めるためにも具体的にどのようなパトロールをするか、回覧板を利用するなどして地域のみなさんに知らせましょう。

また、管轄の交番・駐在所へもお知らせ下さい。

自主パトロールのイメージ

気楽に！

気負わず、肩肘を張らず、日常生活の一部として気楽にやりましょう。

気長に

短期間では、パトロールの効果は実感できないものです。

気長に続けられれば、やがて気づかないうちに防犯の輪が広がり、犯罪の起こりにくい環境が醸成され、犯罪の発生が減少してゆきます。

危険なく！

せっかくパトロールをしても、事故にあったり怪我をしたのでは、継続することが難しくなってしまいます。危険なことをする必要はありません。

自主パトロールの必需品

メモ帳

危険な場所や不審な車の特徴などをメモして下さい。

日誌

注意する場所などを次の人へ引き継げるように、日誌を作成しましょう。

反射テープなど

夜間パトロールの際は、事故にあわないよう反射テープなどを付けましょう。また、夕暮れ時は、特に歩行者が見えにくい状態になりますので、事故防止のために、早めに反射テープなどを付けましょう。

帽子や腕章

パトロールをしているということが、見て分かるように「地域安全パトロール」などと記載された腕章や帽子などをしましょう。

* 物的支援である、腕章・帽子を活用してください。

懐中電灯

夜間パトロールの際は、危険回避のために、懐中電灯を携行しましょう。

* 赤色灯を購入して活用しているところもあります。

自主パトロールの注意事項

危険なことはしない！

パトロール中に、不審者を発見したら、警察へ通報して下さい。

不審な車を発見したらナンバーや特徴をチェックして、その車が逃げても追跡などせずに警察へ通報して下さい。

事件を目撃したら、直ちに110番通報して下さい。

交通事故に注意！

パトロール時には、反射テープや懐中電灯などを活用し、交通事故には、十分注意して下さい。



旭地区自治会連合会の
皆さんのご活躍の様子



自主パトロールの方法

自主パトロールは、その字のとおり、みなさんが主体となって行うものです。

複数で！

2・3人以上の複数でパトロールしましょう。

多くの目で見ることにより、より多くの危険箇所などを発見できますし、例えば、不審な車を発見したときには、1人はナンバー、1人は車の特徴、1人は運転手の特徴と、役割を決めて覚えるようにすれば、きめ細かく確認できます。

徒歩で！（地域エリアパトロール）

街頭で犯罪被害にあう方の多くは、徒歩や自転車です。

同じ視点で見ることによって、犯罪にあいそうな場所や危険な場所などを知ることができ、注意喚起に役立ちます。

危険な場所などの確認結果から、防犯灯の設置を要望する際などにも役立ちます。

声かけを！

声かけといっても「おはようございます」や「こんばんは」といった挨拶だけでも十分です。

地域のみなさんが声をかけ合うことにより、地域の連帯感が醸成されます。

犯罪者は、声をかけられることを嫌います。

1ヶ月に10日以上は活動を！

パトロールは、毎日継続したり、夕方や夜間だけでなく、昼間もパトロールは必要ですが、1ヶ月に10日以上はパトロールしましょう。

みなさんの姿が頻繁に見えるほど、犯罪者には嫌なものです。

できる範囲で！

無理をせず、みなさんのできる範囲（時間・場所）でパトロールしましょう。

何事も苦痛になったのでは、長続きしないものです。

パトロール後に情報交換を！

ただパトロールをするだけでなく、パトロールの結果について情報交換することにより、危険な場所の改善、子供やお年寄りへの注意喚起など、犯罪を起こりにくくする上で役立ちます。

広報活動を！

パトロールを実施することはもちろん、パトロールの結果から分かった危険な場所などについて注意喚起することも重要です。

パトロールから知り得た危険な場所や注意する場所などを地図に示した「安全・安心マップ」を作成して地域の方へ配布すれば、ここに書いた方法は、一例ですので、みなさんがお住まいの地域に合った方法でパトロールして下さい。

自主パトロールの着眼点

パトロールを通じて、安全を確保するとともに、地域の環境をもう一度見直して下さい。

パトロールで確認した事件や事故が発生する危険性が高い場所などは、地域ぐるみで働きかけをして改善していきましょう。
犯罪の起きにくい環境が何より必要です。

防犯灯の整備が必要な場所はないか

暗い道路は、ちかんなどが発生するおそれがあります。

不良少年のたまり場となっている場所はないか

公園や店先など、不良少年のたまり場になっているところがあると、そこから非行が広がって行きます。

通学路に異常はないか

不審人物や不審車両がないかなど、子どもの安全を確保するために、登下校時間は重点的なパトロールが必要です。

公園などの遊び場に異常はないか

放課後、子ども達が安心して遊べるよう、警戒が必要です。

夕暮れ時に子どもが遊んでいたら、帰宅を促しましょう。

また、公園の見通しを良くして明るくすることで、防犯効果があります。

水難事故の発生するおそれはないか

河川・用水・湖沼など、水難事故などが発生するおそれのある場所を確認し、改善を働きかけましょう。

廃屋や空き家などに異常はないか

廃屋や空き家などは、犯罪の温床となり易い場所です。

また、放火されたり、不良少年のたまり場となるおそれもあります。

管理者などへ改善の働きかけをしましょう。

犯罪別の着眼点

- 1 空き巣・忍び込み
 - ・ 玄関や勝手口の戸締りを完全されているか
 - ・ 窓の下や塀ぎわなどの足場に利用されやすい箱や台を置かれていないか
 - ・ 夜間には防犯灯、街灯、門柱等の照明設備により家の周囲明るくされているか
- 2 車上ねらい
 - ・ 車に施錠されドアガラス窓の開かれていないか
 - ・ 車内の見えるところに物を置かれていないか
 - ・ 路上でなくシャッター等の設備のある駐車場に駐車されているか
- 3 自動車盗
 - ・ 車に施錠されエンジンキーが抜かれ車内に残されていないか

- ・ シャッター等の設備のある駐車場に駐車されているか
 - ・ 自動車盗難防止装置やハンドルロック等の防犯設備を取り付けられているか
- 4 自転車盗
- ・ 自転車に鍵がかかっているか
 - ・ 補助錠（チェーンロック等）取り付けダブルロックになっているか
 - ・ 泥除けなどに住所氏名等が記載されているか
 - ・ 夜間路上や軒下に放置していないか
- 5 自動販売機ねらい
- ・ 自動販売機内の現金がこまめに回収されているか
 - ・ 夜間における照明設備やアームバー等の防犯対策がなされているか

不審者発見時等の通報要領

不審者の発見、あるいは事件事故等緊急事案に遭遇した場合には、携帯電話や公衆電話等により、110番又は管轄する警察署に通報して下さい。

なお、通報に際しては、次の点に配慮して通報をお願いします。

- 1 事件事故の種別（例えば泥棒、喧嘩、火事等）
- 2 いつ（発生時間）
- 3 どこで（発生場所）
例～ 町 方、 小学校の近く等著名な建物などの目印となるものを併せて
- 4 だれが（犯人の人相、着衣等）
- 5 なにを（事件事故の状況）
例～泥棒が逃げている、喧嘩している等
- 6 どうしたか（現在の状況）
例～犯人の逃走方向、負傷者の有無等

少年に対する声かけ要領

子供の非行を防ぐためには、初期の段階で非行を早く発見して適切な措置を取る必要があることから、パトロールに当たっては次のような少年に対して叱るのではなく、やさしさをもって「ひと声」をかけて指導しましょう。

- 1 学校や職場をズル休みして、盛り場をうろついている少年
- 2 酒を飲んだり、タバコを吸ったりしている少年
- 3 少年の出入がふさわしくないような遊技施設での遊びや夜遊びしている少年
- 4 本屋などで、いかがわしい本を立ち読みしている少年
- 5 その他、よくない行いや悪いいたずら、危ない遊びをしている少年

自主防犯パトロールQ&A

Q あいさつや声かけなどの簡単なことをするだけで、効果があるのですか？

A これから悪いことをしようという人間は、声をかけられることにより出鼻をくじかれたり、顔を見られたことで犯罪を思いとどまったり、立ち去ったりするので、犯罪の抑止に大変効果があります。

この運動が定着することにより、広く地域全体が顔見知りとなり、たとえ、悪いことをしようとする気持ちのある人がいたとしても、悪いことはできなくなります。

Q パトロールは示されたとおりにしなければならないのですか？

A あくまでも地域住民による自主活動ですので、地域の実状に合わせた方法で実施して下さい。

Q 腕章などはどうするのですか？

A 「ふくいマイタウン・パトロール隊」支援事業として、地域エリアパトロールグループ及び広域エリアパトロールグループに対して帽子・腕章の支援を行っています。

詳しくは、最寄りの警察署又は駐・交番にてお尋ねください。

Q 危険ではないですか？

A 危険な行為をしないように心がけることにより、危険を防止することができます。

不審者、不審車両を発見した際や少年のたまり場を発見した際は、声をかけたり、近寄ったりせずに警察へ通報して下さい。

事件・事故を目撃した際は、直ちに110番通報して下さい。

また、夕方から夜間は、反射テープを活用するなどして、交通事故に十分気を付けて下さい。

Q パトロールは昼間も必要なのですか？

A 犯罪は、24時間発生しています。

特に、空き巣は昼前後に多く発生しています。

昼間のパトロールも犯罪抑止に、大変有効です。

参考資料1

防犯のポイント【窃盗・性犯罪・子どもの誘拐】

【侵入盗】

一戸建て住宅や共同住宅（アパート、マンション）の玄関扉や窓ガラス等を特殊な手口で壊して侵入する事件が目立っています。犯人の中には金品を盗むだけでなく、家人が帰宅するのを待ち伏せしたり、就寝中に忍び込み、家人と鉢合わせになって見つかるとう強盗に変身したりする者もいます。日頃から「自分の財産は自分で守る」という防犯意識を持って侵入盗防止対策を進めましょう。

侵入防止のポイント

戸締りを励行しましょう。

基本は戸締り

- ・ ゴミ出しなど、ちょっとした外出でも、必ず戸締りをする。
- ・ 風呂場やトイレ等は、狙われやすいので、戸締りに心がける。
- ・ 寝る前に、もう一度戸締りを確かめる。

家の周囲を見直しましょう。

見通しを良くすることで、侵入を防ぐ

- ・ 塀は低い生垣やメッシュフェンスにする。
- ・ 庭木を剪定するなどして、侵入者が身を隠す場所をつくらない。
- ・ はしごや踏み台など、侵入の足場になるものを置かない。
- ・ 常夜灯（庭園、門灯）を効果的に設置し、暗闇をつくらない。

玄関・勝手口

新たな侵入手口にも対応できていますか？

- ・ 扉の材質や構造は、破壊が困難なものを選ぶ。
- ・ 「主錠」のほかに、扉の上部等に「補助錠」を設置する。
- ・ 以前、人が居住していた家に引っ越す時は、必ず鍵を取り替える。
賃貸住宅の場合は、家主に防犯上の理解を求めて鍵の交換を依頼する。
- ・ ドアの隙間にボール等を差し込んで、こじ開けられないように、ガードプレートを設置する。
- ・ ピッキングを防ぐためには、CP-C錠等が有効
- ・ サムターン回しを防ぐためには、サムターンカバーの取り付けや補助錠が有効
- ・ カム送り解錠を防ぐためには、対策部品の取り付けや補助錠が有効

ピッキングとは

いわゆるピッキング用具と呼ばれる金属工具を鍵穴に差込み、解錠させる侵入手口のことです。

CP-C錠とは

（財）全国防犯協会連合会がシリンダーの耐ピッキング性能を評価する制度により、防犯性に優れていると認定した錠のことです。

サムターン回しとは

扉の内側にある錠部分であるサムターンを郵便受けの隙間等から針金や特殊工具を入れて操作し、解錠させる侵入手口のことです。

カム送り解錠とは

特殊な道具を用いてドアシリンダーカラーと扉の間に隙間を作り、その隙間から工具を差し込んで錠ケース内の回転カムを回転させて、解錠させる侵入手口のことです。

窓

最も多いガラス破り

- ・ 窓ガラスに防犯フィルムを貼り付けたり、窓ガラスを防犯ガラスに交換する。
ガラスを破壊する時間が長くなる 破壊する際に大きな音が発生する
- ・ 補助錠や防犯警報設備も有効
- ・ 小窓には格子を取り付ける

防犯機器設置

ホームセキュリティで防御

- ・ 赤外線センサー、防犯ビデオ、通報装置等を有効に活用する。
敷地内等への侵入を早期に発見して対応することによって侵入を防止する

【乗り物盗・車上ねらい】

「乗り物盗」とは、自動車、オートバイ、自転車等の盗難のことです。

盗まれた乗り物の多くが、強盗事件や、ひったくり、暴走行為等に使用されています。二次犯罪を防ぐためにも、盗難防止に努めましょう。

「車上ねらい」とは、駐車している車等から貴重品等を盗む行為です。防犯に心がけて大切な財産を守りましょう。

乗り物盗・車上ねらい防止のポイント

自動車盗の防止

駐車場に停めることが基本

- ・ 駐車場には照明をつけ、夜間も明るくする。
- ・ 車内にカバンや貴重品を置いたままにしない。
- ・ ダッシュボードなど、車内にスペアキーを置かない。
- ・ 自動警報装置等の盗難防止装置を活用する。
- ・ 窓を閉め、エンジンキーを抜き取り、ドアをロックしたことを確認する。
ほんの2、3分の短い駐車でも、自宅のガレージでも、必ず実行

自転車・オートバイ盗の防止

基本は2重ロック

- ・ 路上に放置せず、駐輪場に停める。
- ・ オートバイを停める時は、キーを抜き、ハンドルロックをかけ、チェーン錠をする。
- ・ 自転車を停める時は、主錠とチェーン錠等をつける。(wロック)

防犯登録をしましょう

盗難防止や被害時の早期発見に効果的

- ・ 自転車の防犯登録やオートバイのグッドライダー防犯登録をすると、持ち主の名前や住所が警察のコンピューターに登録されます。
- ・ 犯罪者が乗り物を盗もうとする時、防犯登録をしていないものをまず狙います。
- ・ 盗難に遭ってしまった時の早期発見に役立ちます。
- ・ 防犯登録をしたら、防犯登録の控えを保管しておきましょう。

【ひったくり】

ひったくりは、グループ化、巧妙化しています。身近にある犯罪の一つと考え、被害に遭わないための防衛意識を持ちましょう。

ひったくり防止のポイント

自己防衛意識を持って被害を防ぐ

- ・ 自転車の荷かごには、覆い（防犯ネット等）をかぶせたり、雑誌等をふた代わりに使って、バック等を簡単に取り出せないようにする。
- ・ ハンドバック等の持ち物は、車道と反対側に持つようにする。
- ・ 後ろから来るオートバイや自転車には注意する。
- ・ 人通りが少ない裏通りは避け、なるべく人通りの多い表通りを通るようにする
- ・ 多額の現金や貴重品を持つときは、できるだけ車を利用する。

【性犯罪・住居侵入】

強制わいせつや暴行などから身を守るためには、正しい防犯知識が大切です。

外出時の注意

日頃からの防衛意識が大切

- ・ 暗い夜道の一人歩きは避ける。
- ・ 帰宅が夜になった時は、家族に迎えに来てもらったり、タクシーを利用する。
- ・ もし、チカンに遭いそうになったら、大きな声で助けを呼び、付近の店や家に飛び込んで助けを求め、すぐ110番通報をする。
- ・ 防犯ブザーなどの防犯グッズを携帯して活用する。
- ・ エレベーターなどの密室では知らない異性と2人きりにならないようにする。
- ・ 「送っていきますよ」などと親切そうに声をかけられても応じない。
- ・ 繁華街やリゾート地などでは、できるだけ2人以上で行動するようにする。

家での注意

安易にドアを開けない

- ・ 訪問者は、ドアスコープやインターホンで確認する。
- ・ セールスマン、器具の点検・修理、配送など、知らない人が訪れた時は、まずドアチェーンをつけたまま対応する。
- ・ 制服を着ているというだけで信用せず、来訪理由、営業所名、電話番号等を確認

- する。管理人のいる集合住宅の場合は、管理人にも確認する。
- ・ 訪問者が室内に入る必要がある場合は、ドアを開けたままで作業を確認したり、信頼できる人に立ち会ってもらう。
 - ・ 家の中、特に浴室、便所、寝室を外からのぞかれないようにする。
 - ・ 窓辺のカーテンは、夜に部屋を明るくした時も内部の様子が透けて見えないものを選ぶ。
 - ・ 洗濯物を外から見える所に干さない。表札は名字だけにするなど、女性の一人暮らしであることが分からないように工夫をする。
 - ・ 階上だからといって安心せずに、戸締りに気を配る。
 - ・ 個人情報を書かれている書類を捨てる時は、細かく破いてから他のゴミに混ぜて出す。
 - ・ 名前・電話番号・住所・生年月日・クレジット番号・パスワード等を不用意に他人に教えない。

【子どもの誘拐】

子どもを犯罪者から守るのは、大人の責任です。子どもが安心して遊べる環境は、地域の人々の協力によって作られます。また、子どもへのしつけも大切です。

地域ぐるみの対策

地域の目が大切

- ・ 子どもが一人で遊んでいたりと、暗くなるまで遊んでいたら、家に帰るよう一声かける。
- ・ 子どもの周囲をウロウロしている人、子どもの様子をうかがっている人を見かけたら「何かあったのですか」と声をかける。

子どもへのしつけ

何度も繰り返し教える。

- ・ 外に出かける時は、行き先や、誰と一緒にか等を話してから出かけるように習慣づける。
- ・ 一人遊びは危険。遊ぶ時は友達といっしょに遊ぶ。
- ・ 優しい言葉で話しかけられても、知らない人にはついていかない。
- ・ 怖い時には大きな声で助けを呼ぶ。
- ・ 暗くなるまで遊んだり、遠くまで行かない。

【地域ぐるみの防犯】

犯罪者は、人間関係が希薄な地域を好みます。犯罪者が一番嫌がるのは、地域の連帯と信頼感です。そして、見通しよく整備され、夜間も明るい地域では犯罪は行われにくくなります。

防犯コミュニティづくりのポイント

ご近所同士の絆が大切

- ・ 地域住民が連携し、声かけをするなど、「ここでは犯行をすることができない」と犯罪者に思わせる。
- ・ 近所の人を覚え、防犯についての情報交換をする。
- ・ 高齢者世帯や幼い子どもがいる世帯や女性だけの世帯などの隣人を地域ぐるみでバックアップする。

ブローケン・ウインドウズ(割れた窓)理論

1 ニューヨークの奇跡

1990年代のニューヨークは、4時間に1件の割合で殺人事件が発生するなど治安が極めて悪かったが、1994年に当選したジュリアーノ市長が思い切った犯罪抑止策を打ち出した結果、治安が見事に回復した。

その犯罪抑止策は地下鉄の犯罪抑止策から立証されたもので、ブローケン・ウインドウズ理論に基づくものである。それは「徹底した落書き消し」と「軽犯罪の徹底した取り締まり」である。強盗等の地下鉄犯罪で乗客減に悩んでいたニューヨークの地下鉄が犯罪学者であるジョージ・ケリングの助言により、取組んだ。

まず、地下鉄街の落書きを徹底して消したところ、3年後に犯罪が減少した。続いて無賃乗車や飲酒による迷惑行為等の軽犯罪を徹底して取り締まったところ、2年後に凶悪犯罪が3分の1までに減少したのである。

ジュリアーノ市長はこの地下鉄の成果に習い、新たに3,000人の警察官を増員するとともに、街中の落書きという落書きを自治体職員や警察官等に徹底的に消させるとともに、落書き行為や歩行者の信号無視、空き缶のポイ捨てなどの軽犯罪の徹底した取締りをさせたのである。

その結果、5年後には凶悪犯罪がやはり3分の1まで減少し、治安の回復とともに転出していた市民も戻ってきて現在の繁栄をもたらしたのである。

2 ブローケン・ウインドウズ理論

ニューヨークの奇跡をもたらした犯罪抑止策の基本となっているのは、「小さな犯罪こそが大きな犯罪を引き起こす引き金となる。つまり、小さな犯罪が発生すると、そこから別の犯罪が発生する。」というブローケン・ウインドウズ理論である。

カリフォルニアで心理学者が実験をした。車を路上に放置し、ナンバーをはずし、ボンネットを開けていたが何の変化も起きなかった。そこで、フロントガラスをハンマーで叩き割って放置したところ、数十分もしないうちにある親子がバッテリーをはずして持ち去り、その後24時間以内にタイヤやドアなどの部品が次々と持ち去られ、あっという間に、車は無残な姿になってしまったのである。

これは「罪悪感の薄れから、自分だけではないという意識が普段では行わない行動を起こす。」という心理が働いた結果である。たとえば、自転車で出かけて「駐輪禁止」と張り紙がある場所では、他に一台も停められていないときは止めようとしなが、他にも違反した自転車が多数停められているときは停めてしまうことがある。これは、他の人もやっているから構わないという罪悪感が薄れてしまうからである。このような心理が働くことを「割れた窓理論」という。